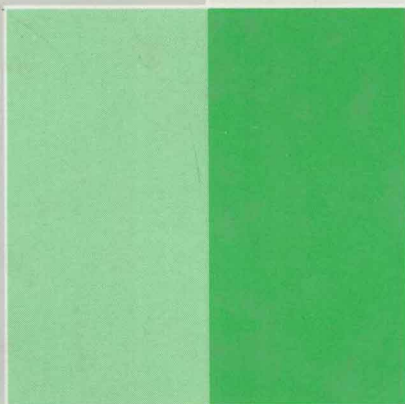


# 工業簿記入門

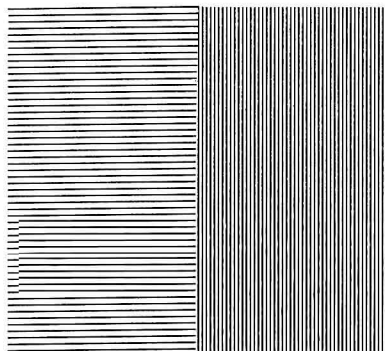
成蹊大学教授 新井 益太郎 著



同文館

# 工業簿記入門

成蹊大学教授 新井 益太郎 著



同文館

### 〈著者略歴〉

#### 新井 益太郎 (あらい・ますたろう)

大正10年11月 静岡県浜松市に生まれる。  
昭和24年3月 東京商科大学(現、一橋大学)学部を卒業  
昭和27年10月 一橋大学特別研究生を経て、茨城大学専任講師  
昭和33年4月 茨城大学助教授、明治学院大学助教授を経て成蹊大学助教授  
昭和38年4月 成蹊大学(経済学部)教授となり現在に至る。経営学博士  
ほかに、日本租税研究協会税務会計委員会委員および日本会計研究学会評議員、不動産鑑定士試験委員、税理士試験委員などを兼ねた。

主要編著書 「後入先出法」(中央経済社)、「原価計算入門」(同文館)、「例解税務簿記」(中央経済社)、「新簿記学」(国元書房)、「税務会計の手ほどき」(経林書房)、「会計学中辞典」(同文館)、「実習工業簿記」(中央経済社)、「原価計算の手ほどき」(同文館)、「減価償却の理論」(同文館)など。

《検印省略》

昭和59年7月10日 初版発行

略称—工簿入門

### 工業簿記入門

定価 2,500円

著 者 新 井 益 太 郎

発行者 中 島 朝 彦

発行所 同文館出版株式会社

東京都千代田区神田神保町 1-41 〒101  
電話(東京)294-1801~6 振替東京0-42935

© M. ARAI  
Printed in Japan 1984

印刷: KMS  
製本: KMS

ISBN 4-495-13371-0

## はじめに

本書は、工業簿記の入門書である。工業簿記の手頃な入門書がほしいという読者の願いを素直に受止め、やさしい表現で、例題や練習問題を豊富に盛り込んで本書を執筆した。本書がよく読者の皆さんに、好評を以て受入れられることを願っている。

私が工業簿記の入門書を最初に執筆したのは昭和37年の暮のことであるから、もう20年以上も昔のことである。大蔵省企業会計審議会から「原価計算基準」が公表された直後であったかと思う。未熟な著作であったにもかかわらず、私の著書は幸いに読者から好評を以て迎えられ、しばしば版を重ね、四訂版まで出版された。本当に光栄の至りである。しかし、そのうちに紙型も古くなり結局絶版となった。出版社からは早く新しく書き直すようにと度度お誘いを受けたが、何かと雑務にとりまぎれて機会をえないまま、今日に至った。誠に余儀ない次第である。

今回、ようやく全文を書き直して、出版することができるようになったことを私は大変うれしく思っている。全体の構成は旧著と大きな差はない。いわゆる伝統的な体系を用いていることは、目次をごらんいただければお分かりになると思う。このことが、安心して読者が工業簿記に入っていける道であると私は思っている。

工業簿記は、当然原価計算を理解しないと習熟できない。そのため本書は、原価計算を分かりやすく説明することによって、工業簿記の理解に役立てようと努めている。

簿記は工業簿記に限らず、商業簿記においても手間をいとわず記帳し、計算してみることが身につける最も容易な道である。ただ、目で文章を追うだけでは駄目である。ノートに、鉛筆を以て問題の解答を書いてみて、正しく解答しえたかどうか検討してみることが大切である。練習問題としては、日本商工会議所の簿記検定試験問題や全国経理学校協会の検定試験問題を随処

(ii)

に採用させていただいたので、これに充分時間を掛けて学んで欲しい。

本書の完成にあたっては桜美林大学非常勤講師 長浜昭夫君の協力をえたことを特記したい。同君は日商簿記専門学校などにおいても非常勤講師として勤めているが、真摯な学究であることを紹介し、同君が学界において健やかに育つことを願っている。なお、同文館社長の中島さんの暖かいご配慮と、出版部の市川良之さんの熱心なお世話をいただいた。心からお礼を申し述べたい。僅か1カ月前に「原価計算入門」を、私は同じ同文館から出版したが、本書ともどもご利用下されば幸いである。

昭和59年6月5日

著 者

## 目 次

|                               |    |
|-------------------------------|----|
| は し が き .....                 | i  |
| 第1章 序 論 .....                 | 3  |
| 第1節 工業簿記の特色 .....             | 3  |
| 第2節 原 価 計 算 .....             | 4  |
| 練 習 問 題 .....                 | 5  |
| 第2章 原価と原価計算 .....             | 7  |
| 第1節 原価の意味と分類 .....            | 7  |
| (1) 発生形態による分類 .....           | 7  |
| (2) 製品との関連による分類 .....         | 7  |
| (3) 操業度との関連による分類 .....        | 8  |
| (4) 管理可能性による分類 .....          | 9  |
| 第2節 非 原 価 項 目 .....           | 10 |
| 第3節 原価の集計手続 .....             | 11 |
| 第4節 原価計算の種類 .....             | 12 |
| (1) 総合原価計算と個別原価計算 .....       | 12 |
| (2) 事後原価計算と事前原価計算 .....       | 13 |
| (3) 全部原価計算と部分原価計算 .....       | 13 |
| 第5節 製 造 指 図 書 .....           | 14 |
| 第6節 原価計算期間 .....              | 15 |
| 練 習 問 題 .....                 | 15 |
| 第3章 工業簿記の構造 .....             | 17 |
| 第1節 勘定科目の分類 .....             | 17 |
| 第2節 工業簿記に特有な勘定科目とその記入方法 ..... | 20 |
| (1) 貸借対照表勘定 .....             | 20 |

(iv)

|                                 |    |
|---------------------------------|----|
| (2) 損益計算書勘定 .....               | 21 |
| (3) 原価計算勘定 .....                | 21 |
| (4) 決算集合勘定 .....                | 24 |
| 第3節  商的工業簿記と完全工業簿記 .....        | 24 |
| (1)  商的工業簿記 .....               | 24 |
| (2)  完全工業簿記 .....               | 25 |
| 第4節  内部組織と帳簿体系 .....            | 28 |
| 練習問題 .....                      | 31 |
| 第4章  材料費の計算と記帳 .....            | 35 |
| 第1節  材料費の内容 .....               | 35 |
| 第2節  材料の購入 .....                | 36 |
| (1)  購入手続と記帳 .....              | 36 |
| (2)  購入原価の算定 .....              | 43 |
| 第3節  材料の出庫 .....                | 44 |
| 第4節  材料費の計算 .....               | 49 |
| (1)  消費数量の計算 .....              | 49 |
| (2)  消費単価の計算 .....              | 51 |
| 第5節  材料の棚卸 .....                | 56 |
| 練習問題 .....                      | 57 |
| 第5章  労務費の計算と記帳 .....            | 61 |
| 第1節  労務費の内容 .....               | 61 |
| 第2節  支払賃金の計算 .....              | 62 |
| 第3節  消費賃金の計算 .....              | 67 |
| (1)  実際額による計算 .....             | 67 |
| (2)  予定額による計算 .....             | 69 |
| 第4節  給与計算期間と原価計算期間の不一致の調整 ..... | 70 |
| 第5節  賃金以外の労務費の計算 .....          | 71 |

|                          |     |
|--------------------------|-----|
| 練習問題 .....               | 72  |
| 第6章 経費の計算と記帳.....        | 75  |
| 第1節 経費の内容 .....          | 75  |
| 第2節 経費消費高の計算 .....       | 75  |
| (1) 支払経費 .....           | 76  |
| (2) 測定経費 .....           | 77  |
| (3) 月割経費 .....           | 77  |
| (4) 発生経費 .....           | 78  |
| 第3節 経費の集計と記帳 .....       | 78  |
| 練習問題 .....               | 80  |
| 第7章 製造間接費の計算と記帳 .....    | 83  |
| 第1節 製造間接費の集計 .....       | 83  |
| 第2節 製造間接費の実際配賦.....      | 83  |
| (1) 価額法 .....            | 84  |
| (2) 時間法 .....            | 84  |
| 第3節 製造間接費の予定配賦.....      | 89  |
| 練習問題 .....               | 91  |
| 第8章 部門費の計算と記帳 .....      | 95  |
| 第1節 部門別計算の意義と目的 .....    | 95  |
| 第2節 原価部門の設定 .....        | 95  |
| 第3節 部門別計算の手続 .....       | 96  |
| 第4節 部門費の集計 .....         | 97  |
| 第5節 補助部門費の製造部門への配賦 ..... | 103 |
| 練習問題 .....               | 110 |
| 第9章 総合原価計算と記帳 (その1)..... | 113 |

(vi)

|                            |     |
|----------------------------|-----|
| 第1節 総合原価計算の意義と分類 .....     | 113 |
| 第2節 仕掛品の評価 .....           | 114 |
| 第3節 単純総合原価計算 .....         | 118 |
| 第4節 仕損じと減損の処理 .....        | 121 |
| 練習問題 .....                 | 124 |
| 第10章 総合原価計算と記帳 (その2) ..... | 129 |
| 第1節 工程別総合原価計算 .....        | 129 |
| 第2節 加工費工程別総合原価計算 .....     | 134 |
| 第3節 等級別総合原価計算 .....        | 134 |
| 第4節 連産品の計算と副産物の処理 .....    | 138 |
| 第5節 組別総合原価計算 .....         | 139 |
| (1) 組直接費と組間接費の区分 .....     | 139 |
| (2) 組別製品原価の計算 .....        | 139 |
| 練習問題 .....                 | 142 |
| 記帳例示 .....                 | 147 |
| 第11章 個別原価計算と記帳 .....       | 173 |
| 第1節 個別原価計算の意義と分類 .....     | 173 |
| 第2節 原価計算表の作成方法 .....       | 175 |
| (1) 直接材料費欄 .....           | 175 |
| (2) 直接労務費欄 .....           | 176 |
| (3) 直接経費欄 .....            | 176 |
| (4) 製造間接費欄 .....           | 176 |
| (5) 総括欄 .....              | 177 |
| 第3節 仕損じおよび作業屑の処理 .....     | 181 |
| (1) 仕損じ .....              | 181 |
| (2) 作業屑 .....              | 182 |
| 練習問題 .....                 | 189 |

|                        |     |
|------------------------|-----|
| 記 帳 例 示 .....          | 195 |
| 第12章 製品の受入と販売の記帳 ..... | 217 |
| 第1節 製品の受入 .....        | 217 |
| 第2節 製品の販売 .....        | 220 |
| 第3節 販売費および一般管理費 .....  | 221 |
| 練 習 問 題 .....          | 222 |
| 第13章 決算と財務諸表 .....     | 225 |
| 第1節 決算の意義とその手続 .....   | 225 |
| (1) 月 次 決 算 .....      | 225 |
| (2) 年 次 決 算 .....      | 226 |
| 第2節 財 務 諸 表 .....      | 227 |
| (1) 損益計算書 .....        | 227 |
| (2) 貸借対照表 .....        | 228 |
| (3) 製造原価報告書(明細書) ..... | 230 |
| 練 習 問 題 .....          | 233 |
| 第14章 工場会計の独立 .....     | 235 |
| 第1節 工場会計独立の意義 .....    | 235 |
| 第2節 記 帳 方 法 .....      | 236 |
| 第3節 未達事項と内部利益 .....    | 239 |
| (1) 未達事項の整理 .....      | 239 |
| (2) 内部利益の除去 .....      | 240 |
| 練 習 問 題 .....          | 241 |
| 第15章 標準原価計算 .....      | 243 |
| 第1節 標準原価計算の意義と目的 ..... | 243 |
| 第2節 標準原価の種類 .....      | 243 |
| 第3節 標準原価の設定 .....      | 244 |

|                       |     |
|-----------------------|-----|
| (1) 標準直接材料費 .....     | 244 |
| (2) 標準直接労務費 .....     | 245 |
| (3) 標準製造間接費 .....     | 245 |
| 第4節 原価差異の分析 .....     | 245 |
| (1) 直接材料費差異 .....     | 245 |
| (2) 直接労務費差異 .....     | 246 |
| (3) 製造間接費差異 .....     | 247 |
| 第5節 記帳方法 .....        | 249 |
| (1) シングル・プラン .....    | 249 |
| (2) パーシャル・プラン .....   | 250 |
| 第6節 原価差異の処理 .....     | 250 |
| 練習問題 .....            | 251 |
| 第16章 直接原価計算 .....     | 255 |
| 第1節 直接原価計算の意義 .....   | 255 |
| 第2節 直接原価計算の方法 .....   | 256 |
| 第3節 直接原価計算の記帳方法 ..... | 258 |
| 練習問題 .....            | 260 |
| 練習問題解答 .....          | 263 |
| 索引 .....              | 301 |

# 工業簿記入門



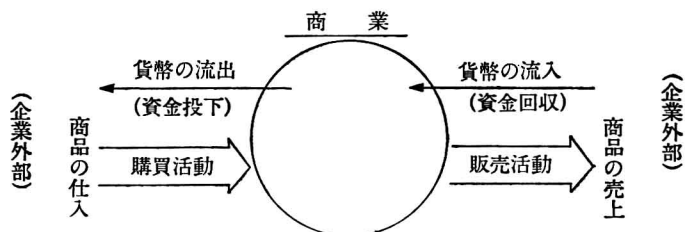
# 第1章 序 論

## 第1節 工業簿記の特色

製造工業で用いられている簿記を工業簿記という。工業簿記は、商業簿記と比べてどのような特色があるのだろうか。この問いに答えるには、まず製造工業と商業の経営活動の違いを明らかにする必要がある。

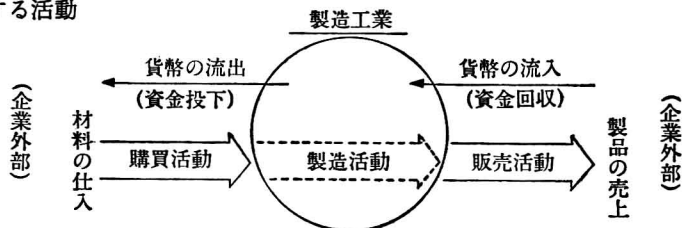
商品の売買を営む商業の経営活動は次の二つに分けられる。

- (1) 購買活動……商品の仕入れ、販売設備などの購入、給料・諸経費などの支払いに関する活動
- (2) 販売活動……商品の販売に関する活動



これに対して、製造工業の経営活動は次の三つに分けられる。

- (1) 購買活動……材料・機械などの購入、賃金・諸経費などの支払いに関する活動



(2) 製造活動……製品の製造に関する活動

(3) 販売活動……製品の販売に関する活動

この場合、購買活動と販売活動は企業外部に対する活動であるから外部活動といい、製造活動は企業内部で行われる活動であるから内部活動という。

商業と製造工業の経営活動を比較してみると、その違いは、製造活動すなわち内部活動の有無にあることがわかる。したがって、商業簿記と工業簿記の違いもここにある。すなわち、商業簿記の対象は外部活動のみであるのに対し、工業簿記は外部活動と内部活動の両方をその対象とする。

工業簿記は商業簿記に比べて、次のような特色をもっている。

- (1) 内部活動によって生ずる取引を記録するため、多くの特有な勘定科目が設定される。
- (2) 内部活動の記録は、製造の進行にともなって行われるから、それに関係のある勘定間での振替記入がひんばんに行われる。
- (3) 製品の製造に要した費用とそれ以外の費用とを、明確に区別しなければならない。
- (4) 複雑な内部活動を記録するため、特殊仕訳帳・補助元帳・計算表が多く用いられ、補助元帳を統制する統制勘定も多数設定される。
- (5) 損益勘定などの集合勘定は、商業簿記では決算時に設けられるが、工業簿記では製造活動の各段階で製造費用を集計するので、決算時以外にも多くの集合勘定が設けられる。

## 第2節 原 価 計 算

製造工業は製品を製造し、これを販売して利益を得ることを目的としている。この場合、製品の製造に要した費用(これを製造原価という)がわかれば、これと販売価額とを比べて、売上利益を求めることができる。ふつう、製品1単位あたりの製造原価を計算する手続を原価計算というが、製造工業にとって、原価計算をいかに適切に行うかは重要な問題である。

(注) 原価計算をとり入れた工業簿記を完全工業簿記ということがあがあるが、これに

については第3章で説明する。

原価計算の目的には次のようなものがある。

- (1) 財務会計目的……損益計算書に計上される売上原価や、貸借対照表に資産として計上される製品・仕掛品などの価額は、原価計算によって適正に算定される。
- (2) 価格計算目的……原価計算によって算定された製造原価に適正な利益を加えることによって、販売価格を決定することができる。
- (3) 原価管理目的……原価計算を行うことによって、生産能率の向上と、経営活動の改善に役立つ資料を得ることができる。
- (4) 予算目的……原価計算を行うことによって、企業に必要な予算がどれだけかを知ることができ、予算の管理に役立てることができる。
- (5) 経営の基本計画設定目的……原価計算から得られた資料をもとにして企業の進むべき方向を示す計画をたてることことができる。

### 【練習問題】

**問題 1** 次の各文の（ ）のなかに、適当なことばを入れなさい。

- ① 製造業では、(イ)活動である購買活動・販売活動と、内部活動である(ロ)活動を行っている。これらの活動を複式簿記の原理にしたがって記録・計算・整理する簿記を(ハ)という。
- ② 製品の(ニ)のために要した費用を計算し、製品の1単位あたりの(ホ)を計算する手続を(ヘ)という。この(ヘ)をとり入れた簿記を、完全工業簿記ということがある。

**問題 2** 次の事柄のうち、企業の内部活動に属するものはどれか、番号で答えなさい。

- ① 材料¥300,000を掛で買い入れた。
- ② 電力料¥80,000を小切手を振り出して支払った。
- ③ 製品の製造のため、材料¥100,000を消費した。
- ④ 工場の消耗品¥60,000を買い入れ現金で支払った。
- ⑤ 製品¥200,000が完成した。
- ⑥ 製品の製造のため、電力料¥70,000を消費した。

**問題 3** 原価計算の主要な目的を三つあげなさい。

